

令和7年度 研究推進計画

三次市立三次小学校 教務部

1. 学校教育目標

(1) 学校教育目標

心豊かで 自ら学ぶ意欲のある 子どもの育成 ～みんなでつくるみんなの学校～

(2) めざす子供像

- 進んで学ぶ児童 (知)
- 仲良く伸び合う児童 (徳)
- 元気でやりぬく児童 (体)

(3) 育成すべき資質・能力

- 主体性：・自ら行動することで新たな価値を生み出し、積極的に他に貢献しようとする。
- コミュニケーション能力：目的と目標を共有し、目標達成のために自らの役割を理解し、他者と協力できる。
- 協調性：自分の考えをもち、他者の思いを受け止め、言葉で伝え合うことを通して互いに理解し、認め合える。

2. 研究主題および主題設定の理由

(1) 研究主題

地域社会との共創による探究カリキュラムの開発
～伝え合う良さを実感できる表現力の育成(評価と単元構成の一体化を通して)～

(2) 主題設定の理由

本校は、令和6年度より広島県の「探究的な学びを中核とした「学びの変革」カリキュラム研究事業」の指定を2年間受け、三次中学校区内の小中学校が連携し、生活科・総合的な学習の時間に「探究×地域社会との共創＝新たな価値の創造」をテーマに「地域の課題は地域の人に聞け」「ワクワクするプロジェクト」をキーワードに地域課題の課題解決に向けた探究的な学びを行い、児童の資質能力の向上を図っている。

令和6年度、三次小学校では、中学校区内で共通した課題である「表現力」の育成を目指し、「伝え合い」に焦点を当て、生活科・総合的な学習の時間を研究教科として、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」「実行」「振り返り」という探究的な学習スタイルを基盤とした単元構成を工夫し、児童にどのような力を付けたいのか、どのような力が身に付いているのかを定期的に評価し、指導に活かす指導と評価の一体化を目指してきた。

具体的な取り組みの成果と課題は下記の通りである。

《成果》

① 探究的な学習サイクルを意識して単元構成を行った。

1年	生活科「たのしいあきいっぱい～めざせ あきあそびめいじん～」
2年	生活科「町のすてきを みつけ隊～つたえたいなまちのすてき～」
3年	総合的な学習の時間「ふるさととはっけん～三次探検隊～三次どんちゃん～」
4年	総合的な学習の時間「ふるさととはっけん～残そう!三次の伝統文化～どうしてみよしはもののけのまちになったか～」
5年	総合的な学習の時間「グッドサポートタウン三次～防災～」
6年	総合的な学習の時間「ふくらませ夢と希望」～ビフォーアフタープロジェクト～未来の自分

- ② 身に付けさせたい資質・能力や伝え合っている目指す姿を学年に応じて明確化し、その具体的な姿を児童と共有した。
- ③ 三次中学校区で統一した9年間を見越したルーブリックをもとに、本校の児童の実態等を踏まえ、授業実践を通して授業改善を行った。
- ④ 地域人材・外部人材を活用した単元設定し、活動を行った。

	内 容	地域・外部人材
1年	生活科「楽しい秋いっぱい」 花いっぱい運動 生活科「もうすぐ2年生」	・きりこちゃんチーム ・地域の保育所(6か所) ・JA みよし
2年	生活科「どきどきわくわくまちたんけん」 ・さつまいもの苗植え	・校区の施設やお店等(8か所) ・民生委員
3年	総合的な学習の時間 「ふるさとのはっけん三次探検隊～三次の小路～」 社会科「わたしのまちみんなのまち」 「ふるさとのはっけん～三次探検隊～三次どんちゃん～」	・森岡さん ・天野芳明さん, 天野秀樹さん ・東洋広告(保護者 三上さん)
4年	総合的な学習の時間 「ふるさとのはっけん～残そう!三次の伝統文化～」 (鮎) (稲生物怪録) (水生生物検査)	・三次市観光協会(鶴匠日坂さん) ・江の川漁業協同組合 ・三次もののけミュージアム ・国土交通省
5年	総合的な学習の時間 「防災について考えよう」 「つながる三次～ボランティアをしよう」 社会科「情報産業とわたしたちの暮らし」	・三次市土木課 ・三次市産業振興課 農林振興係 ・三次市社会福祉協議会 ・福山医療学園 ・コンビニエンスストア天野さん
6年	総合的な学習の時間 「未来に向かって発進」	・保護者 ・商工会議所 ・辻村寿三郎

- ⑤ 児童が安心して学べる環境の整備を行い、話し合いの場を設定して授業を行った。伝え合いを楽しんでいる児童が増加した。

◎ i-check (6月) 「クラス全体やグループで話し合うことが楽しいか。」

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	平均	前年度
とても楽しい	75.0	90.0	68.4	47.6	97.0	40.9	69.8	68.7
まあまあ楽しい	14.3	10.0	26.3	38.1	3.0	31.8	20.5	24.0
あまり楽しくない	7.1	0	0	9.5	0	22.7	6.5	6.9
楽しくない	3.6	0	5.3	4.8	0	4.5	3.0	0.4

◎ i-check (6月)

1年生～2年生

「思ったことをいう時、友達と考えが同じでも、「～さんと同じです。」だけではなく、自分の考えが言えるか。」

3年生～6年生

「クラス全体やグループ、友だち同士で話し合いをする時、自分の意見を活発・積極的に発言しているか。」

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	平均	前年度
いつもしている	32.1	65.0	68.4	28.6	81.8	13.6	48.2	33.6
まあまあしている	35.7	25.0	21.1	47.6	18.2	54.5	33.7	38.5
あまりしていない	14.3	10.0	10.5	23.8	0	18.2	12.8	23.2
まったくしていない	17.9	0	0	0	0	13.6	5.2	4.5

◎ 三次市学力到達度検査 児童質問紙 (1月)

「自分の思っていることや考えていることを周りの人に話しますか。」

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	平均	前年度
話す			21.2	37.8	63.3	21.4	38.4	31.4
わりと話す			30.3	27.0	36.7	40.5	33.6	41.5
あまり話さない			42.4	32.4	0	33.3	27.0	22.4
話さない			6.1	2.7	0	4.8	3.4	4.6

◎ 三次市学力到達度検査 国語科・算数科の結果

国語科、算数科ともにどの学年も、全国平均を上回っていた。しかし、情報を関連付けて読み取る力や意図に沿って説明する問に関して、ほとんどの学年が全国平均を下回っていた。情報を整理したり、筋道を立てて自分の考えをまとめ表現したりする力に課題が見られる。

2年生は「広島県学びの基盤に関する調査」において、言葉の達人では、一般語彙知識の正答率が高いが、数字言葉は、個人差が大きく課題がある児童が数名いる。数の達人では、数、形、配置の3つの次元を同時に注目する類推の問題は、正答率が低かった。複数の条件を同時に注目することが難しく、変化の決まりを類推することに課題がある児童が多かった。

		1年	2年	3年	4年	5年	6年
国 語	本校			65.9	69.8	81.2	68.9
	三次市			67.3	73.2	76.1	68.9
	全国			62.3	69.9	71.9	69.9
数 算	本校			77.7	76.2	70.4	76.1
	三次市			77.3	76.6	68.2	77.1
	全国			70.9	68.0	61.7	67.4

三次市・全国平均以上 ・全国平均以上 ・全国平均以下

これらのことから、昨年度同様、本校の児童の課題は、「自分の考えを伝える力（表現力）」である。伝え合いは楽しい・大切と感じていても、自分の思いを表現するとなると、一歩下がってしまう。やはり、一人一人が問われていることに沿った自分の考えをもち、発信していく力を身に付けていく必要がある。

これらを踏まえて、これまでの取り組みを基に、昨年度作成したルーブリックを活かし、児童が自らの考えをもって発信していけるような単元構成をグレードアップさせていくために、「評価と単元構成の一体化」に重点を置いて研究を行う。引き続き、生活科・総合的な学習の時間を研究教科として、他教科と関連付けながら、探究的な学

習スタイルを基盤とした単元構成を行い、3つの資質・能力の向上につなげていく。教師と児童が目指すべきゴール(具体的な姿)を共有化し、探究的な学習スタイルで学習を進めていけば、児童は自らの考えをもって課題解決に向けて学び合うことができるだろう。本校で身に付けさせたい資質・能力の育成に向かって、自己を振り返り、仲間と共に学び合う過程の中で、伝え合う良さを実感させ、表現力の育成を図っていきたい。

3. 研究仮説

○育成すべき3つの「資質や能力」の育成を目指し、地域の特色を生かした生活科・総合的な学習の時間と各教科の横断的な視点でつながるカリキュラムマネジメントと評価(次につながる)の一体化を図った単元構成を仕組めば、主体的な学びにつながる能力が育成できるだろう。

4. 研修計画及び研究方法

(1) 研修計画

①理論研修

- ・「地域社会と共創したカリキュラム開発事業」について
- ・育成すべき資質・能力およびルーブリックについて(具体的な姿を共有)
- ・探究的(PBL)な学習スタイルについて
- ・指導と評価を生かした単元構想の一体化について

②授業研究

- ・学区授業研 6月 日

※「令和7年度探究的な学びを中核とした「学びの変革」カリキュラム研究開発事業に向けて学区で計画的に実施する。

※公開研究会 今年度はなし

③授業交流(座席表やICTを活用し、子どもの学びを見取る)

④児童意識調査を実施(6月・12月)

⑤学力到達度調査(1月 三次市学力到達度検査)の実施

(国語科「話す・聞く」「思考・判断・表現力」質問紙を活用し、子どもの学びを見取る)

⑥全国学力・学習状況調査・三次市学力到達度検査の分析

(国語科「話す・聞く」「思考・判断・表現力」質問紙を活用し、子どもの学びを見取る)

(2) 研究方法

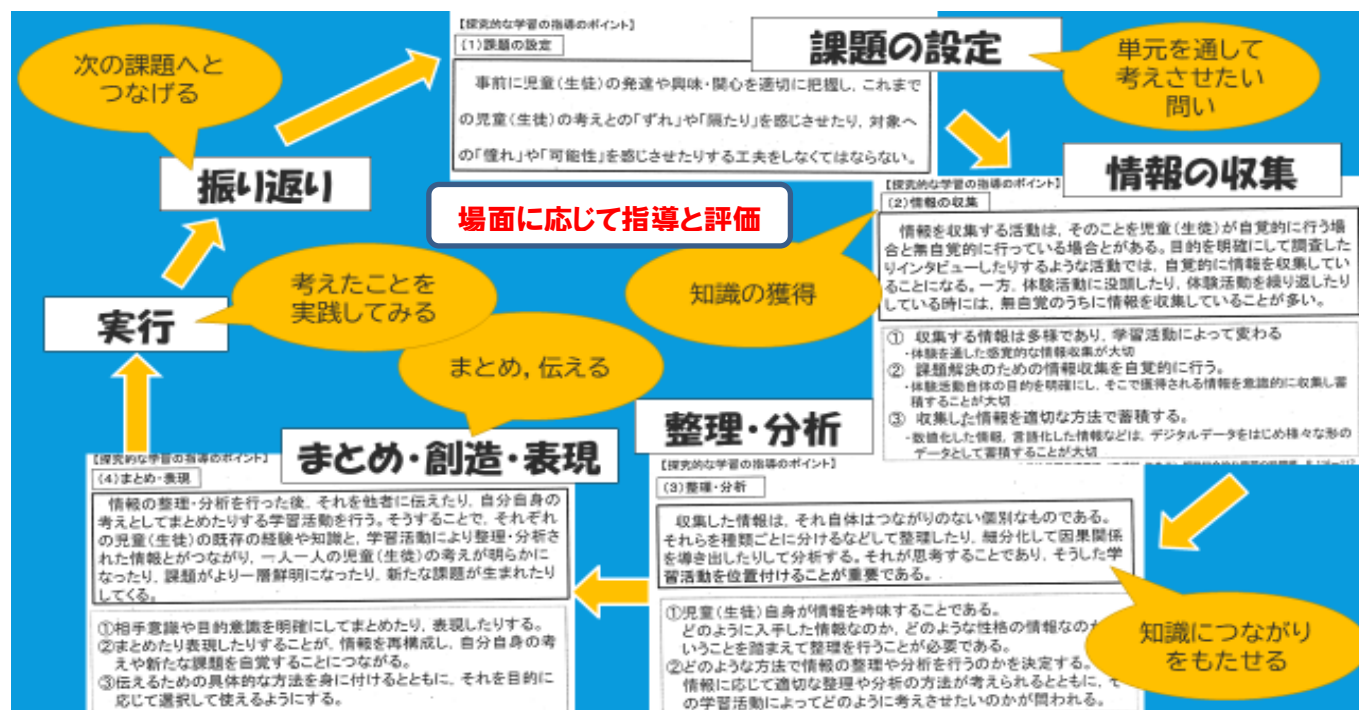
本年度は、昨年度に引き続き、生活科及び総合的な学習の時間を研究教科とし、他教科と関連づけた単元開発・授業実践を行う。研究方法については、以下の通りである。

①探究的な学習サイクルを意識した単元構成 ⇒ 三次小探究スタイル

探究的な学習サイクルとは、下図のような問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく一連の学習活動である。他教科との関連を明確にして、表現力の育成を図っていく。

※探究スタイルの中に、PBLの取り組みを導入する。

答えが出ない問、答えが複数ある課題について、児童が自ら問題を見つけ、さらにその問題を自ら、仲間と選んで解決する能力を身に付ける学習スタイルを取り入れる。「問題解決型学習」「課題解決型学習」。



②指導と評価の一体化を目指したルーブリックの活用

ルーブリックとは、三次中学校区で定めた「コミュニケーション能力」「協調性」「主体性」について到達度を測るための評価方法である。各観点で達成したかどうかを児童の具体的な姿で評価するため、実践を通して昨年度作成したものを活用し、改善していく。

指導したことを評価し、次の指導に活かすために、児童が書いたワークシートなどをファイル等で残しておく。

③地域人材・外部人材の活用

令和7年度探究的な学びを中核とした「学びの変革」カリキュラム研究開発事業に向けて学区で計画のもとに、各学年1単元以上、地域・外部と連携し、児童の学習に活かす。形式的な学習とならないように、連携する際には、児童にどのような力を身に付けさせるための学習なのかを明確にした上で事前に打ち合わせをしておく。

④研究に関連した取組

- ・「三次小学校『そろえる』」を全職員で徹底し、児童が安心して学べる環境を整備
- ・「自分たちが考える機会」「自分たちが考えたことをやりきる機会」「自分を振り返る機会」の時間の確保
- ・「学び合い」は「聴き合い」から始まることを意識した授業規律(別紙提案)
- (例) 脱リボイス、ストックフレーズの見直し、教師はファシリテート役に……など
- ・伝え合っている姿を全職員で共有し、児童に価値付け
- ・掲示物の活用(別紙提案)

「学習の振り返り」「ルーブリック表」を提示し、授業の中で活用する

本校で「育成すべき資質・能力」を掲示し、授業や学校生活全体を通して児童に価値付ける

(3) 研究構想図(別紙参照)

5. 検証方法と指標

視 点	方 法	指 標(目標)
① 児童が伝え合う良さを感じているか。	・児童意識調査 (6月・1月)	・生活科・総合的な学習の時間において「考えを伝え合うことは楽しい。」「考えを伝え合うことは大切だ。」とする肯定的な評価の児童の割合を70%以上にする。

心豊かで 自ら学ぶ意欲のある 子どもの育成 ～みんなでつくるみんなの学校～

○ 進んで学ぶ児童 (知) _____ ○ 仲良く伸び合う児童 (徳) _____ ○ 元気でやりぬく児童 (体)

地域社会との共創による探究カリキュラムの開発

～伝え合う良さを実感できる表現力の育成(評価と単元構成の一体化を通して)～

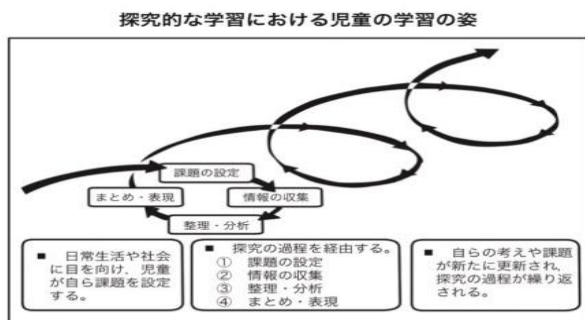
研究仮説

育成すべき3つの「資質や能力」の育成を目指し、指導(地域の人)の特色を生かした総合的な学習の時間と各教科の横断的な視点でつながるカリキュラムマネジメントと評価(次につながる)の一体化を図った単元構成を仕組みば、主体的な学びにつながる自己指導能力が育成できるだろう。

<目指す子供像>

自信をもって自分の考えや思いを表現できる子
表現方法を選択し、自分の学びを調整しようとする子

三次小探究スタイル



目指そう! ○年生の姿!

育成すべき資質・能力が達成された姿を、学年に応じて定めておく。児童がイメージしやすい言葉に変換して掲示しておく。

(例) 主体性⇒何事にもチャレンジしよう
協調性⇒ゴールに向けてみんなで考えよう
コミュニケーション能力
⇒友達のことを考えて行動しよう

ルーズリックの作成

※所 総合的な学習の時間 ルーズリック	評価
コミュニケーション能力 自分や自分の考えや思いを相手に伝えることができる。	A ①自分の考えや思いを相手に伝えることができる。 B ②自分の考えや思いを相手に伝えることができる。
協調性 他者と協力して、問題を解決することができる。	A ①自分の考えや思いを相手に伝えることができる。 B ②自分の考えや思いを相手に伝えることができる。
主体性 自分の考えや思いを自分で表現することができる。	A ①自分の考えや思いを相手に伝えることができる。 B ②自分の考えや思いを相手に伝えることができる。

学区で作成しているルーズリックを基に、必要に応じて学年で作成し、児童に提示する。
※児童と一緒に考えてもよい。
ルーズリックをもとに振り返りを行う

コミュニティスクールの活動

- ①活動目標を明確にする。
 - ②事前に打ち合わせをする。
 - ・活動内容 (日時・場所・準備物等)
 - ・つきたい力 (ここを正確に)
 (連携シートを作成)
- ※探究的な学習活動(PBL)や体験活動を仕組む。

全教職員で意識統一

- ・生活科、総合的な学習の時間において、表現し合う(伝え合う)機会を確保した単元構成を考える。
- ・「コミュニケーション能力」「協調性」「主体性」の捉え方を各学年で設定する。

- ・自分の思いを伝えることが当たり前の学級風土の確立。
- ・「学び合い」は「聴き合い」からスタートすることを意識する。
- ・児童が安心して登校し、学習できるように「三次小学校『そろえる』」を全教職員で徹底。